



感染管理認定看護師の専門性について

新井さゆり

I. はじめに

感染管理認定看護師の期待される能力として施設の中心となって多職種と協働しながら、医療関連感染の予防と管理を推進するために以下の能力(表1)を身につけなければなりません¹⁾。また、感染管理認定看護師は2012(平成24年)年度診療報酬改定(平成24年3月5日保医発0305第1号)による感染防止対策加算が追い風となり、この年の1,613人(2012年)から2,560人(2016年7月現在)と増加、過去15年の推移を比較しても過去最大で4年間に約1,000人が誕生しています²⁾。私は、2010年に感染管理認定看護師を取得しました。2012年診療報酬改定により「感染防止対策加算1」の施設基準に、医師または看護師のうち1名が専従でなければ

ならないと定められているため、感染制御部の立ち上げと同時に感染管理認定看護師として専従で活動を実施しています。

II. 活動内容

1. 感染管理の実践

(1) 院内感染防止委員会、感染対策チーム(Infection Control Team: ICT)、看護部感染対策委員会

委員会では、多剤耐性菌の発生状況や抗菌薬使用状況、手指消毒薬使用量、感染管理対策の報告を行っています。さらに、感染症発症時の対応やマニュアル整備、地域内や国内外を含め感染症の情報共有を図っています。アウトブレイク時は、ICTチームや各科医師・各部署の所

表1 感染管理分野の期待される能力

1. 各施設の状況を評価し、感染予防・管理システムを組織的かつ戦略的に構築するための計画を立案できる。
2. 医療関連感染予防・管理システムの運用、評価、改善を実践できる。
3. 施設の状況にあわせた医療関連感染サーベイランスを実践できる。
4. 医療関連感染の予防と管理に関する科学的根拠を評価し、医療を提供する場で実施されているケアの改善に活用できる。
5. 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、医療関連感染の予防と管理について指導できる。
6. 医療関連感染の予防と管理について、医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族からの相談に対応し、問題解決に向けた支援ができる。
7. 医療を提供する場で働くあらゆる人々からの相談に対応し、職業感染防止を推進できる。
8. 医療関連感染の予防と管理の視点からファシリティ・マネジメント(施設管理)を推進できる。
9. 関連組織と協働して、パンデミックや災害等の緊急事態を想定した準備と対応ができる。
10. 医療を提供する場で働くあらゆる人々及び患者とその家族に対し、倫理的配慮を行いながら医療関連感染の予防と管理が実践できる。
11. 上記1~10を通して感染管理分野の役割モデルを示す。

(日本看護協会認定更新審査書類より抜粋)

属長・リンクナースが連携し連絡を緊密に図り感染拡大の防止に努めています。

医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師の構成からなる ICT チームは多職種が協力し連携を図りながら、週1回のラウンドを実施しています。多剤耐性菌や血液培養陽性患者、長期的な抗菌薬使用患者などを中心にラウンドを行い、環境ラウンドはチェック項目に沿って現場の感染対策の状況確認と指導を行っています。

各部署には日頃の感染対策の中心的な役割モデルと推進役を果たしているリンクナースがいます。看護部感染対策委員会では、感染管理認定看護師とリンクナースが病棟の感染対策について情報共有を図り、リンクナース育成を含め現場で改善する力・目標を達成するまでの過程を一緒に取り組み、PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを活用しながら協働で日頃の感染管理活動を実施しています。

(2) 医療関連感染サーベイランス

医療関連サーベイランスとは、医療関連感染の発生に関するデータを疫学的原則に基づいて収集、解釈しその結果を改善できる人々と共有する活動です³⁾。日常的な医療関連感染の発生頻度や日常的頻度を超えた発生の早期発見、感染対策の改善のため目標値の設定や感染対策を実施する動機づけとして ICT チームやリンクナースの行動変容を導くことにつながり、病院の質を評価するツールとしても活用しています。

(3) 教育

感染防止対策加算の施設基準に「全職員を対象として、少なくとも年2回程度、定期的に院内感染対策に関する研修を行っていること」とあります。そのため、ICT チーム・リンクナース・その他コメディカルに講師を依頼し、全職員が参加できるよう年25回の講習会を実施しています。またこれとは別に外部委託業者に対しても講習を行っています。講習会に参加するだけでなく、感染対策の重要性と感染管理の継続の必要性をより理解してもらうために、なるべく動画や実技を取り入れ現場に即した講義を

実施するよう工夫しています。

(4) 感染防止技術・職業感染防止

患者や職員の安全を守るため、医療材料の導入や血液体液曝露時の対応・結核患者発生時の接触者対応、ワクチン接種の推進活動などを実施しています。医療材料導入の際には、資材部との連携や企業面談、費用対効果、サンプルやアンケートの依頼、導入後の聞き取り調査を実施し、現場の所属長の協力を得ながら進めています。

(5) 相談

感染管理に関する相談として、患者・職員・家族の感染症発生報告・対策や対応、職員罹患時の就業制限の相談、医療器具の消毒や管理方法など多岐にわたります。日頃は PHS、休日や緊急を要する際は携帯電話での対応としています。電話だけの対応では内容の把握や患者の状況が確認できないため、現場になるべく足を運び状況確認後に対策を実施しています。

(6) 法人施設との連携

現在法人施設の介入は、感染防止対策加算2取得施設が2施設、リハビリ病院1施設、透析クリニック1施設、訪問看護ステーション、デイケアセンター、保育施設です。環境ラウンドや講習会、感染症発症やアウトブレイク時の介入、感染防止対策のコンサルテーションを電話やメールで実施し定期的に各施設を訪問しています。

(7) 行政や地域施設との連携

行政とは、感染症法に基づく医師の届出の提出・結核発生時の対応・アウトブレイク対策・渡航歴患者の対応・医療監視など日頃からかわり多く、日々連絡調整できる環境と感染管理の相談や報告を実施しています。

周辺の医療機関施設とは、地域の感染対策推進のために連携を図るネットワーク活動を実施しており、医療18施設・介護10施設・保育3施設・保健所1施設が参加しています。また施設内の感染症や感染管理の情報共有、ネットワーク参加施設へのセミナー開催なども実施し

ています。ネットワーク活動には感染管理認定看護師が9人在籍しており、自己研鑽の場として、また感染管理活動の相談や情報共有を図りながら自施設の改善につなげています。

2. 調整・連携

感染管理認定看護師は実践活動だけではなく、病院全体・法人施設・他施設・行政との調整役でもあります。病院内であれば、医師や各所属長・コメディカルと調整を図り感染対策を実行します。また、ICTチームが委員会活動の運営やラウンドをスムーズに進行できるようメンバー間の調整や他部門との連携を図ります。さらに、病院外のネットワーク活動やセミナー運営について、連絡調整や企画内容の検討を行い各認定看護師同士で連携を図るなど、人とのつながりも多く、調整・連携は多岐にわたります。

Ⅲ. 自分自身が大切にしていること

1. チャンスを逃さない

感染症が発生し「相談したい。介入して欲しい」など必要とされる時をチャンスと思い、施設や病棟へ必ず足を運びます。感染対策の介入が改善につながり、感染管理の徹底が患者や医療従事者を守るきっかけになると考えています。

2. コミュニケーション

感染管理の介入で足を運ぶと、一歩引いた相手（医療従事者や患者）がいます。「何を指摘されるのか」「何を言われるのか」そんな中、笑顔でこの機会を作ってくれた事に対する感謝を伝え、現場の問題点を引き出し、改善内容を一緒に考えます。その際にコミュニケーションスキルが求められます。今後も相手にとって必要とされる存在にならなければならないと考えています。

3. 客観的にみる

感染管理の実践は、現場に即した対応が求められます。そのため、ガイドラインや他施設の感染管理の取り組みについて情報収集します。その後、自施設を客観的にみて何が不足してい

るのか、できる対策はどこまでなのかを考察し現場介入するようにしています。

Ⅳ. 図書室とのかかわり

図書室を利用する時は、感染管理で何かの課題や問題点、解決しなければならない時に突然訪問し、必要な資料や文献を求める事が多くいつもご迷惑をおかけしております。それでも、的確な資料や文献を素早く提供していただき現場の感染管理活動に繋がっています。また、新着書籍や雑誌の紹介もしていただき、最新の感染対策情報の入手やマニュアル整備に役立てることができています。

Ⅴ. おわりに

感染管理認定看護師を取得し6年目になります。参考文献やICTメンバー、院内外の方々に指導とサポートをしていただき経験を重ねています。そのため、今回ご紹介した内容はあくまでも筆者の活動内容の一部であり、全ての感染管理認定看護師の活動内容ではない事をご理解・ご了承いただきたいと思います。

参考文献

- 1) 日本看護協会ホームページ. 認定看護師認定更新の手引き. [引用 2016-08-22].
http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2016/03/CN_tebiki_koushin_2016.pdf
- 2) 日本看護協会ホームページ. 分野別都道府県別登録者数. [引用 2016-08-22].
http://nintei.nurse.or.jp/nursing/wp-content/uploads/2016/08/08cn_ic.pdf
- 3) 坂本史衣. 基礎から学ぶ医療関連感染対策一標準予防策からサーベイランスまで. 東京: 南江堂; 2008.
- 4) 村上啓雄. 職種別タスク一覧表つき! 感染対策チームの全仕事まる見えタスクファイル—立ち上げも、継続も、ICT活動200%ミラクルアップ (INFECTION CONTROL. 2015年秋季増刊). 大阪: メディカ出版; 2015.
- 5) 平岡康子. ICTにおけるICNの役割. 感染対策ICTジャーナル. 2013; 8(4): 299-305.